

(エ)南側調整池

空港南側のA区域（p6-1-30、図-6.1.2(2)参照）は、空港供用後は、空港南側流末まで集水された雨水が集中的に排水されることから、排水出口部に調整施設を設置し、ピークカットを行ってから轟川に安全に放流する計画とする。

放流先河川となる轟川（準用河川）は、轟橋から上流河川について10年確率規模で河川改修整備されていることから、供用開始後における南側調整池の調整機能は、供用開始後の計画流出量（50年確率規模）を、放流河川となる轟川の河川整備規模である10年確率規模まで流量調整する機能を持たせることとする。

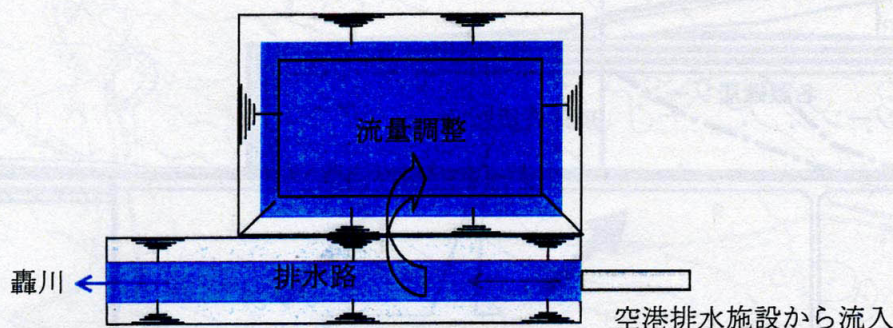


図-6.1.2(8) 南側調整池（供用開始後）流量調整概念図

南側調整池については、その目的が、計画規模相当（50年確率規模）の短期集中的な洪水が発生した場合にピークカットを行う施設であることから、降雨強度は「短期降雨強度」による検討のみにより必要容量を決定した。

表-6.1.2(7) 南側調整池（供用開始後） 計算結果

施設名	対象流域	流域面積 (ha)	平均 流出係数	平均 透水係数 (cm/s)	計算値	
					浸透面積 (m ²)	必要容量 (m ³)
南側調整池	A区域	32.8	0.61	1.5×10 ⁻⁴	800	1,265

※ 短期降雨強度による検討結果

南側調整池は、空港南側流末部まで集水された雨水が集中的に排水される排水出口部（進入灯橋梁の海側）に流量調整機能を設ける。

また、放流先河川である轟川の河川整備規模（10年確率規模）を上回る洪水時にピークカットする施設であることから、常時の排水については調整池に貯留する必要はない。

したがって、空港南側流末の集水地点より10年確率規模の流量が流下可能な排水路を設置して常時の排水を行い、洪水時には排水路の流下能力を上回る流量を調整池側